

# 森林動物研究センターシンポジウムアンケート 第2部

(2011. 12. 15)

1 あなたの性別 / 年齢は？ (該当する項目に○印を記入してください。以下同じ。)

Ⓐ女性   Ⓑ男性 /

①10歳未満   ②10代   ③20代   ④30代   ⑤40代   ⑥50代   ⑦60代   ⑧70代以上

2 お住まいは？

①神戸市内   ②阪神地域   ③東播磨地域   ④北播磨地域   ⑤中播磨地域   ⑥西播磨地域

⑦但馬地域   ⑧丹波地域   ⑨淡路地域   ⑩県外 (            )   ⑪その他 (            )

3 お仕事は？

①学生 (Ⓐ小中学生   Ⓑ高校生   Ⓒ大学生)   ②会社員 (・民間   ・公務員)   ③農業家 (Ⓐ専業

Ⓑ兼業)   ④自営業   ⑤主婦   ⑥無職   ⑦その他 (            )

4 今回のシンポジウムをどのようにして知りましたか？

①ちらし   ②新聞記事   ③ホームページ   ④その他 (            )

5 今回のシンポジウム「一兵庫モデルの挑戦」の内容で、最も関心を持てた(良かった)ものは？

(各項目の評価欄に○印を記入の上、よろしければコメントを記載してください。複数回答可)

開 催 内 容	評 価 欄	コ メ ン ト
① 「兵庫から全国へ 一兵庫モデルの挑戦」		
② 「地域で取り組む獣害対策 一成功集落の条件一」		
③ 「住民参画型アライグマ捕獲モデルへの挑戦」		
④ 「兵庫県における特定鳥獣保護管理計画の考え方」		
⑤ パネルディスカッション		

6 次回以降のシンポジウムで取り上げて欲しい獣類・テーマ等は？

区 分	内 容

7 その他、ご意見・ご感想等があればご記入ください。

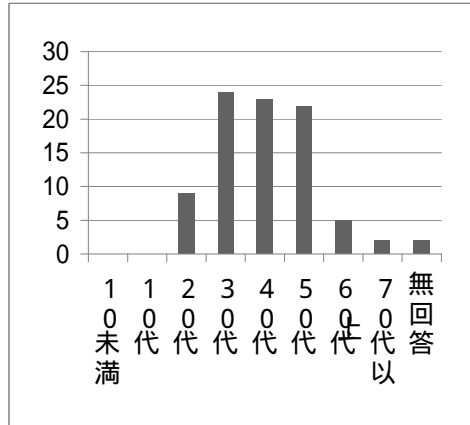
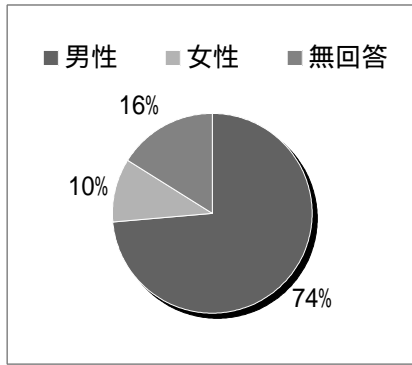
アンケート調査に、ご協力をいただき誠にありがとうございました。

皆さまのご意見・ご感想等を踏まえ、今後のシンポジウムの充実や調査・研究活動にも活用させていただきたいと思っております。お気を付けてお帰りください。ありがとうございました。

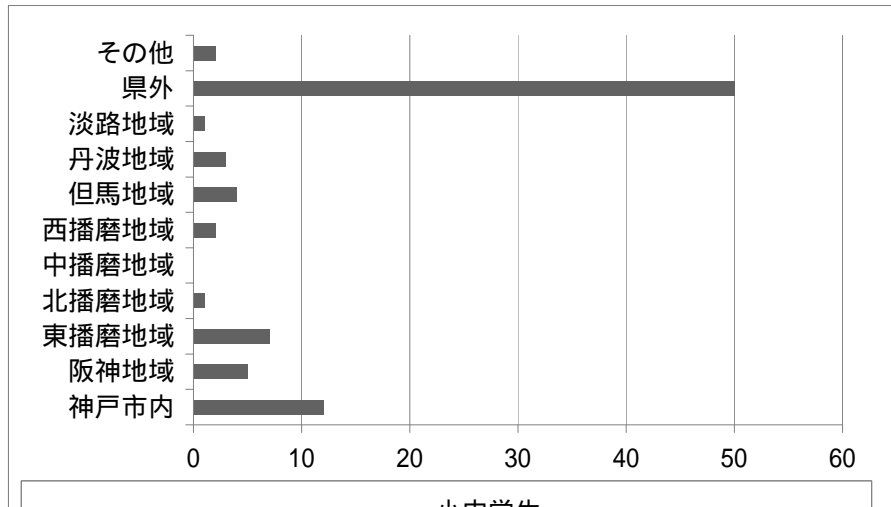
# シンポジウムアンケート

Q1		
a	男性	64
b	女性	9
	無回答	14

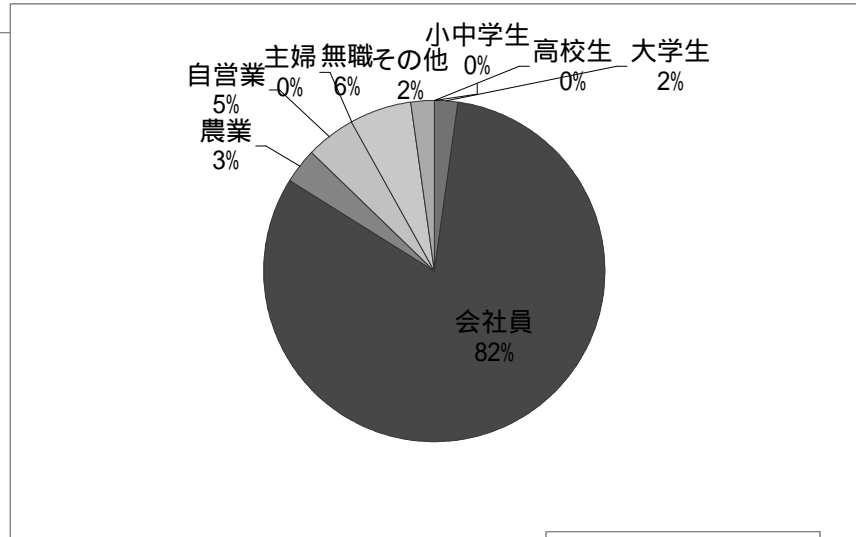
Q1		
1	10未満	
2	10代	
3	20代	9
4	30代	24
5	40代	23
6	50代	22
7	60代	5
8	70代以上	2
	無回答	2



Q2		
1	神戸市内	12
2	阪神地域	5
3	東播磨地域	7
4	北播磨地域	1
5	中播磨地域	
6	西播磨地域	2
7	但馬地域	4
8	丹波地域	3
9	淡路地域	1
10	県外	50
11	その他	2



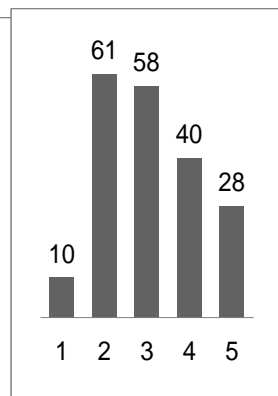
Q3		
1a	小中学生	
1b	高校生	
1c	大学生	2
2	会社員	71
3	農業	3
4	自営業	4
5	主婦	
6	無職	5
7	その他	2



Q4		
1	ちらし	21
2	新聞記事	
3	ホームページ	28
4	その他	37
5	無回答	2

Q5		
1	兵庫から全国へ	10
2	地域で取り組む獣害対策	61
3	住民参画型アライグマ捕獲モデルへの挑戦	58
4	兵庫県における特定鳥獣保護管理計画の考え方	40
5	パネルディスカッション	28

複数回答



1  
3.現在関係しており、参考になった。堺での対策モデルを構築するよう働きかけている。  
5.直接質問したかったが多くの内容に答えていただいたと思ってます。  
外来生物対策をメインに  
アライグマのシンポジウムをお願いします。

---

2  
2.サルの被害対策ができれば他の獣も防げるのでサル対策事例がもっとあってもよかった。あと失敗事例も。  
3.りんけんとこの連けいのスタートがこれからのカギになる。  
獣害に強い集落をつくる方法。サルとの戦い方、実戦へん等  
近畿ブロックの問題点、現状など、連携をふくめたスタートライン的なシンポジウムが必要かと！！具体的に  
どうして動いていくのだという会議シンポジウム等。

---

3  
所要があり一部しか聴取できておりませんので評価等は控えさせていただきます。

---

4  
兵庫県さんの取り組みはすばらしいと再認識させて頂きました。今後とも御指導をお願いします。

---

5  
アライグマ

---

7  
2.他府県からも参加されていることを踏まえて話をされた方がよいと思う。  
3.もう少し内情も話してほしかった。  
地域で対策に取り組んでいるリーダー等の話

---

8  
1.成果をぜひ全国へ発信してください。  
5.センター業務の現状が詳しく聞けてよかった。  
獣害問題は農林業の課題が著しく表われている問題。アライグマに対してはもっと知識や捕獲方法を普及すべきだ。

---

11  
4.現段階の獣種別の考え方が理解できた。  
生息環境管理：隠れ家となる放き地等の対策

---

13  
2.地域の苦勞が伝わる/4.分かりやすい説明

---

14  
センターの事業内容がよく判りました。出来れば、FAX アドレスを・・・。

---

15  
イノシシ：集落での取り組み（何をどのようにしたのか）

---

16  
各獣に分けてより掘り下げた内容の話を伺いたい。（担当地区ではサル被害が多いので、「サルについて」も希望したい）

---

17  
3.住民参画型という点が強く興味をひかれた

18

3.地域ぐるみでアライグマを捕獲している事実を知っておどろいた。毎年調査をしているのはすばらしい。シカの大量捕獲方法の具体例及び商品の紹介して欲しい。本日大変よい知識を得ましたので地元に戻って活用します。

---

19

3.被害の増加に伴い、猟友会だけでは捕獲が追いつかなくなっている。

---

21

都市部における野生動物対策（六甲のイノシシ・アライグマ）

---

22

1.取り組みを概観できた/2.今後検討したい。/3.近隣にアライグマ出没の情報がない。周辺の他府県、市町村との連携、とり組みについて  
現在の兵庫県の取り組みが、他府県、市町村に波及することを切に願います。

---

23

4.わかりやすい

捕獲動物の活用：動物園へ？食用、皮の販売、子供イベント？

共存する村：動物とうまくやっている村、動物がいる方が良いという村はあるのか

---

24

2.地域の状態を知れた。/3.アライグマの実情を知れた。  
他県の事例が知りたい。

---

25

1.具体的に府県を越えた連携を指導してほしい。  
3.熱心なリーダーの存在を知った。森林生息は新知識。  
4.計画の目標がわかりやすくてよかった。  
5.初歩的な質問ばかりで深めるための時間が少なかった。

サル追い払い：サルのオトナメス頭数でドロップネットで捕獲しても無駄なため指針化してほしい。

「止めさし」は、住民参加の駆除で問題であり、銃を「止めさし」限定で許可するなど関係者や国会議員立法などで取り組んでほしい。シンポジウムで提案としてまとまらないか？

---

26

鳥類対策：特にカワウ対策

保護団体との関わり：殺処分に対するあつれきにより対策遅れになりかねない事もあると思います。どういう付き合い方があるのか

---

27

2.やはり、獣害対策には“人”が大事なんだと感じました。

5.住民意識についてはなかなかつかめないものだと思います。農家 - 非農家との意識の差を埋める術が見つかるといいと思いました。

自分が研究している分野でしたので、興味深く聴かせて頂きました。今日のことを参考に自分の研究に励みたいと思います。

---

29

（林所長のお話の具体策として）県民が自らの地域で獣害対策を実践する為、各獣種に応じた学習の機会を設けて頂きたい。鳥取県が取り組まれた獣害対策士「イノシシ士」の様な獣害対策を修得した者を認定しては。そ

の為には、ある程度の時間を要する連続講座（丹波の森大学の様なものをイメージしています。）を開催しては  
いかがでしょうか。

---

30

- 2.各地域での推進体制をつくるのに時間がかかると思いました。
  - 3.アライグマに関する本格的なアウトプットとして興味深かったです。
- 

31

- 3.他地域への導入を考える際の良い参考になります。
  - 4.各動物への取り組みの現状と今後が示され、それぞれの進捗の違いが興味深かった。  
ツキノワグマの現状の報告の中で、800頭以上と推定された場合、狩猟禁止解除というお話が興味深いです。  
100頭程度と推定されていた個体群がそこまで回復するとなると、様々な軋轢とのバランスは大変かと思われま  
すが、本当に先進的なとりくみと感じます。
- 

32

野生動物との共存・・・マイナス面をなげくより面白みを見つける なるほど！

---

33

- 2.具体的でわかりやすかった/3.都市型の問題として大切
- 

34

都会と野性：山奥の中の問題ではなく、都心もふくめて対策を考える。  
動物園、博物館の協力を得ることも重要だと思う。学術的、解剖学的な知識も必要だと思う。

---

36

- 2.農政を進める上で大変参考になりました。  
成功集落の取組  
大変有意義なシンポジウムでした。兵庫モデルが全国展開することを期待します。
- 

38

- 2.ハード整備だけでなくソフト部分の重要性が大切でソフトの充実が成功への近道だとあらためて感じた。
- 

40

- 2.被害防除には、地域のリーダーが必要であり、人材育成が最重要課題であることを再認識した。
  - 4.計画策定のための根拠等、考え方の概要が分かった。
  - 5.様々な意見が聞けて有意義だった。  
イノシシ：捕獲技術の向上に必要な取り組み事例（地域ぐるみでの成功及び失敗を含め）  
森林動物研究センターは全国に先駆けて兵庫県が設立したということだが、各地域での被害状況は様々であり、  
被害対策全般にアドバイス等をいただける貴センターの様な組織が全国にあってもよいのではないか。
- 

41

- 5.問題点がより明確に、よりかみくだいての説明があり、理解の助けとなった。
- 

42

- 6.人材育成：ワイルドライフマネジメントに関して今後どのような人材が必要でどのような役割が求められるの  
か。行政、民間（都市・地方）にかかわらず広く紹介してほしい。（現在の取り組みも含む）
- 

43

林道や集落内の竹ヤブ、雑木林をベルト状に整備することにより、サルの出没が少なくなり効果が出ている。  
また、このバッファゾーンとフェンスを組み合わせている。すべての集落で里山整備を行う必要があると思われ  
る。

---

44

3.捕獲しても数が減らないのは心配です。

---

45

5.もっと長くやってほしい。

処理方法：多く捕獲した時などの個体処分をどのようにすべきか

広域連携：兵庫県内の市町村の連携や近隣都道府県市町村との連携は重要であるので……

---

46

2.集落という単位は小さいけれど少しずつ解決していくことが大切だと思った。

シカ：スマートセンサーによる捕獲実例

捕獲や被害対策も大切だが、森林の整備も重要だと思います。その点は、どうなっているのでしょうか？

---

47

2.成功集落の前向きコメントしか紹介されなかったので失敗例の原因が想像するしかなかった。

3.具体的な捕獲隊の話がきけた。

クマ：クマが人里においてこない対策（山地に食べ物を人為的方法で増やすことはできるのか）

パネルディスカッションは質疑応答に終始しがちですが、「-の難しさ」などのテーマでパネリスト同士の意見交換が（普段されていると思いますが）再現していただけたら、聴いていて有意義だなと思います。

---

48

2.紹介された対策は目新しいものではありませんが、集落で気持ちをまとめることの大切さを再認識しました。

3.市民でも講習会を受ければ捕獲できるとはすばらしいことですね。行政や狩猟者だけでは主体的に対策にかかわれないので。

---

49

イノシシ・シカ：住宅地出没時の対策・予防

全般：市町別対応のここがここが×的な指導

---

52

野生動物（兵庫県に生息する全種）生息分布

---

55

次回からはシカ等の捕獲について理解が広まって来ているが、まだまだ、子供たちへの理解が少ない。食育や命の大切さなども含めてもっと教育機関と連携して、シカ等のほかに理解をふかめてもらいたい。

シカの数のもう一度正確にはかってもらいたい。最近の目げきは、本当に減っている。山に入ってもほとんどみない

3万頭捕獲の成果が上がっていると思うが、いま一度、正確な数を測ってもらいたい。

---

61

2.参考になりました。/3.非常に興味深く聞きました。/5.最後の所長のお話はそのとおりと思います。

個体数管理：サルの群管理と捕獲の方法

---

63

シンポジウムも重要ですが是非共現場実践コースも

---

65

2.具体的事例が一番地域の人に響く/3.深刻さがよくわかった。

獣害対策の成功事例も含め県の対策で良いとこ、より良いとこすばらしいとこを紹介してほしい。できれば地域ごとに開催を

---

66

制度、計画から事例紹介まで、非常にバランスのよい報告だったと思います。

---

67

2. 獣害対策の担当として同意見です。/3. 対策が難しいですね  
カラス・スズメ：鳥獣害対策の鳥バージョン

---

69

3. いろいろな取り組みが分かりました。  
シカ対策  
貴重な話を聞くことができました。スマートセンサーの完成を待っています。

---

71

人材育成：捕獲隊、ワナ見回りのシステム  
森づくり

被害が深刻化する前に実施する対策（被害初期の対策、被害を深刻化させない対策）について、提示頂けると幸いです。森林に生息する動物に関する研究機関でありながら、森林林業に関する現状やこれからの森づくりに関する情報の提示がないのが少し残念でした。（別機会をお願いします。）

---

72

2. 集落単位の防除策の確立が、いかに重要か実感した。  
アライグマ捕獲技術、防除法の新情報

---

73

1-5. 全て関心が持てます。この様にきちんと情報発信してどの様に住民、行政のためになっているか理解してもらおうというのは非常に重要と思います。  
毎年お願いします。

---

75

カラス・ドバト：生態と被害状況、対策について

---

76

1. 熱心に取り組まれているのが良く分かり、参考になった。  
狩猟：狩猟に関する後継者対策について  
捕獲鳥獣の処分：捕獲後の有害鳥獣の処分についてどのように取り組まれているのか

---

78

捕獲：実戦的な捕獲の解説等

---

79

アライグマ・ヌートリア

---

82

2. 取組事例は色々と参考になる。/3. 住民の捕獲技術の推進体制の進め方等参考になった。  
鳥獣の捕獲：シカ、イノシシ等の捕獲技術 どのようにしたら捕獲がすすむか

---

86

3. 小動物での集落ぐるみ対策の事例がわかることができた。  
ヌートリア：今後、問題となることが予想されるため。

---

87

2. 意欲がない、リーダーがいない集落の対応のコメントが欲しかった そこで悩んでいます。  
3. モデルの動向を追ってみたい。  
4. 兵庫の取り組み方が判って良かった。

---